

資料名 病院事業会計貸付金

病院の「8つのプロジェクト」開催回数等令和2年度の活動と令和3年度の予定及び目的に対する数値化した指標と成果検証体制

市立病院経営統括部

**プロジェクトA 病床稼働率アップ（救急医療の強化を含めて）**

目標：340床（稼働率90%）（R3年1月実績：302床、稼働率80%）

R2開催回数：1回（R2年8月18日）

概要：プロジェクトの背景および救急患者数増という目標は、すでに院内で共有しているが、新型コロナウイルス感染症患者の検査・診断・受け入れ治療と従来からの救急医療を両立させることが困難となった。2020年9月以降は救急医療を縮小する方針としたが、R3年度には、プロジェクトの活動を再出発させる。

R3開催予定：2～3回

**プロジェクトB 予定入院患者数と入院単価アップの両立（手術数確保と在院日数短縮）**

目標1：入院単価62,000円/日・人（R3年1月実績：60,591円/日・人）

目標2：入院期間率（I+II）達成度70%（R3年1月実績：61.4%）

R2開催回数：2回（R2年8月24日、12月18日）

概要：2回の会議で、同一診断群の治療を全国平均在院日数以内に終える目標を周知させ、プロジェクトメンバーの当該診療科をはじめとしてクリニカルパスの見直しを開始した。

- ・ 在院日数短縮の成果向上が顕著な科：整形外科、眼科
- ・ 手術件数増加の成果向上が顕著な科：乳腺外科、外科、泌尿器科、呼吸器外科

R3開催予定：2～3回

**プロジェクトC 紹介（新患）率／逆紹介率アップ**

目標：外来単価21,600円/日・人（R2年1月実績：19,147円/日・人）

R2開催回数：2回（R2年10月15日、R3年1月8日）

概要：かかりつけ医との良好で緊密な連携の基本である診療情報提供書の発行頻度増加と掲載内容・表現などの統一を図った。新規採用マグネットDr.の市民への紹介を従来の媒体で広報するだけでなく、かかりつけ医との円滑な病診連携の基盤である『顔の見える』医療情報の交換をコロナ禍でも実現するためのIT活用システムを検討中である。

R3開催予定：2～3回

**プロジェクト D 病院職員数の見直しと働き方改革の両立**

R2 開催回数： 6回 (R2年9月2日、11月24日、12月23日、R3年1月8日、  
R3年1月20日、2月3日)

概要： 『働き方改革』の基本に立ち返り、残業時間短縮や医師はもちろん医療職全員の業務効率化のために、既採用者クランクの中から MA (メディカル・アシスタント) の有資格者を選出し、外来診療などが繁忙な医師へのアシストの試行を始めた (当該医師の本務遂行能力をサポートし、病院収益の改善につなぐため)。さらに、医療職全員が保有している専門職資格の調査と担当役割 (業務) に関する希望調査を実施し、適正配置につなぐ施策を開始した。

R3 開催予定： 3~4回

**プロジェクト E がん診療の拡充と強化**

目標： 国指定がん診療連携拠点病院の承認

R2 開催回数： 2回 (R2年8月19日、11月9日)

概要： 第1回会議で、国指定がん診療連携拠点病院の承認取得という本プロジェクトチームの目標を共有し、現在テーマ別小グループで詳細を検討中である。第2回会議以降は、市域外へのがん症例の流出を抑制し、自院完結率向上を達成するため、より効率的業務フローへの対策を検討している。すでに R2 年度内から、がん化学療法例数・新鋭放射線治療システムであるトモセラピーの治療例数は増加しつつある。

R3 開催予定： 3~4回

**プロジェクト F 内視鏡/超音波センターの効率的運営と業務拡大**

目標： 内視鏡検査/超音波検査の症例数増加

R2 開催回数： 2回 (R2年8月25日、10月19日)

概要： 検査 (内視鏡や超音波を用いた治療法を含む) 対象者の掘り起こしと、患者/医療者の受診/再診のモチベーション向上の施策を検討中であり、R2 年内から個々の患者さんに健康手帳の導入を試みている。本手帳では検査の実際を動画化し、これを QR コードで手帳に貼付することで、患者や紹介元医師が検査結果を動画で確認できる環境を整備する予定である。

R3 開催予定： 2~3回

**プロジェクト G 物流管理業務の強化と医療経費の抑制・削減**

R2 開催回数： 1回 (R2年10月27日)

概要： 固定費 (人件費) について第二の支出源である薬品費・医療材料費の抑制と削減に向け、購入プロセスや、購入後の活用度のモニタリング、さらによりコストパフォーマンスの良いメンテナンス契約への更改、などを包括した

物流管理業務の再構築を図る。またアウトソース人員のマンパワー活用効率の再検証も行い、委託経費の抑制を図る。

R3 開催予定： 2～3 回

#### プロジェクト H 新病院のあり方と建設プロジェクトの検討

R2 開催回数： 0 回

概要： 築 36 年を経過した本院の建て替えを視野に入れ、ポストコロナ時代において AI・遠隔医療なども活用したより効率的でスリム化された近未来医療が提供できる新病院を目指すプロジェクトである。R2 年度内から、現在の病院執行部に新病院を担うべき世代の医療職を加えたチーム構成で、新病院のあり方をハード/ソフト両面から練り上げていく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、会議を開催できなかった。その一方で、コロナ禍の経験から、宝塚市における本院のミッション・スタンス・スケール・パフォーマンスなどが再認識された。R3 年度には、プロジェクトの再立ち上げを行い、今後の政府や兵庫県などの医療行政や地域医療施策の行方も視野に入れながら、新病院構想を組み立てていく予定である。

R3 開催予定： 2～3 回

#### 上記の各プロジェクトの成果検証体制

適宜、各プロジェクトの進捗状況を月末に開催する病院内の「経営会議」にプロジェクトリーダーが、報告します。

数値化した指標の成果検証は、それぞれのプロジェクトで行います。